

## .ICEROSS選択、他に考慮すべきこと



### 断端の形状

ポイントは、ICEROSSの形状に向くように断端の形状を整えるという発想です。ディスタルカップ、ICEROSSパッドなどを組織の代償物として積極的に用いて、断端の形をICEROSSの円筒形状に整えます。

#### 例

円錐形の先細りの断端であれば、ディスタルカップを断端に装着する。断端の骨近辺の保護だけでなく、より円筒形に近づければ、断端末と膝窩部の周径差による過度の締付けの問題も回避できる。

### マトリックスの長さ

サイズや、製造時の個体差はありますが、標準的には10cm程度のマトリックスが注型されています。

短断端の場合、マトリックスが膝関節の動きを阻害する可能性がありますので、注意が必要です。(腓骨頭から断端末までの長さが10cm未満のような場合は、弊社までご確認を。)

長断端の場合、マトリックスが十分に軟部組織をカバーできず、思うような支持性が確保できない場合があります。(腓骨頭遠位端から断端末までの長さが15cm程度の場合は、弊社までご確認を。)



## .ICEROSSとソケット形状



ICEROSSを下腿用ソケットインターフェースとして用いる場合、心がけるべき事として、以下の2点が挙げられます。

### ボリュームの一致を得る。

ソケットと、断端 + ライナーの容積を一致させることで、より大きなエリアで力を分散させる事が出来ますので、断端にかかるストレスを軽減できます。

### ソケット内表面に適応性を持たせる。

シリコーン製分圧パッドをソケットの内表面に取り付けます。分圧パッドの動きにより、かかる力に応じて、ソケット内表面の形状が変化します。荷重時に骨突起部及びその周辺を保護します。

特に、遠位懸垂(ピン、ヒモ)を前提として、アイスカスト・コンパクトによる加圧 + 引き伸ばし採型を実施した場合、ソケットはきつめになります。分圧パッドを適切に用い、全面接触、全面荷重でありながら、遊びを許容するソケットを製作することが、快適な装着のために肝心です。

